

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第41回:2023年はどんな年?

2023年1月12日配信

【ポイント】

- 紛争と共存する「緊張感」に満ちた年
- 2024年の各種選挙を控えた国内政治情勢が国際情勢に影響する年
- その中で日本が主役の一人である年＝責任も重大

【本文】

- 紛争と共存する「緊張感」に満ちた年
 - ・近年に無く紛争/紛争の火種に事欠かない年になる
⇒紛争の発生/激化を避けるため、「緊張感」を持った「管理」が必要になる
 - ・ウクライナ戦争の出口は中々見えない
 - ・出口に必要な要素(戦況膠着、闘い疲れ、一定の言い訳)が未だ揃っていない
 - ・中国共産党新体制運営の行方は各種紛争の行方に大きな影響
 - ・コロナの行方も含めて、既に課題は山積
 - ・3月の全人代で決定される新体制に要注目
 - ・台湾情勢緊張管理は益々重要に
 - ・2024年1月の台湾総統選に向けて、色々な駆け引きが活発化する可能性
 - ・朝鮮半島の緊張が高まる可能性が高いが、対応には手詰まり感も
 - ・北朝鮮による「挑発行為」の常態化にどう対応するのか
- 2024年の各種選挙を控えた国内政治情勢が国際情勢に影響する年
 - ・2023年は主要国での選挙は概ね無い(6月にはトルコの大統領選挙)
 - ・但し、選挙年2024年に向け、国内政治情勢が国際情勢への対応に影響する可能性は増大
 - ・国際紛争での対応の柔軟性を低める可能性に注意

【2024年の重要選挙】

- ・1月;台湾総統選挙;中国の対応は?
- ・2月;インドネシア大統領選挙;2期務め交代するジョコウィ大統領の後任は?
- ・3月;ロシア大統領選挙;プーチン大統領はどうなる?
- ・4~5月;インド総選挙;モディ首相は継続か?
- ・11月;米国大統領選挙;候補者は誰になる?

■その中で日本が主役の一人である年＝責任も重大

- ・2023年には日本はG7の議長国
 - ・G7広島サミット(5月19日～21日)他、多くの閣僚会合を日本で開催
 - ・ウクライナ戦争によりG7の重要性は再認識されている
 - ・参加国は少なく正統性には欠けるが、同志国として効率的な政策主導の核になっている
 - ＝責任は会合主催に留まらない
 - ・ウクライナ紛争解決/制裁/復興の舵取り
 - ・アジアの紛争への欧米関与の確保
 - ・台湾情勢、北朝鮮情勢などへの関心維持と対応強化実現の核となる必要
 - ・アジアの同志国との連携強化
 - ・インド、ASEAN(議長国インドネシア)等とG7の協力関係を深化させる役割
 - ・2024年の多数国間会合はインド太平洋シフト
 - * G7; 日本
 - * G20; インド
 - * ASEAN; インドネシア
 - * APEC; 米国
- ⇒ 昨年のG20成功に向けて日本はインドネシアに種々の面で協力
⇒ 本年は、G7議長として、他の国際会議成功に協力する余地が益々増える
⇒ 特に、G20議長であるインドの動向の影響は大。この点を特に重視する必要

(以上)

りそな総合研究所 顧問 石井正文

問い合わせ先: りそな総合研究所 アジア室 石橋修三

メールアドレス: shuzo.a.ishibashi@rri.co.jp